

年 組 名前：

障害者作品ネット販売

「再入荷未定」に商品価値

一度と同じ物は作れないので、再入荷は未定です。安定供給が当たり前の時代に、あえて不安定供給の商品に価値を見いだしてもらおうと、障害のある人が手作りした作品を扱うオンラインショップが注目を集めている。新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛で障害者が作業所に通えなくなり、商品の納期を守れないという悩みがきっかけになった。

「再入荷未定ショップ」という名称で、さまざまな色の糸で織られたマフラーや、ユニークな形のステンドグラスのオブジェなど、全国の作業所で生まれた約180点を販売。作品がどのように作られたかも紹介している。

知的障害者のアート活用などを企画する会社「ヘラルボニー」（盛岡市）など4団体が運営。商品選定にはこだわっており、例えばウサギ形のオブジェは大きい物で1万7600円と安くはないが、ヘラルボニー社長の松田崇弥さん(30)がほれ込んだ作品。東京都渋谷区の作業所で働く安川孝一さん(38)が、ウサギ形のぬいぐるみに多数のボタンを黙々と貼り付けて作った。

(2021年5月30日付 山梨日日新聞5面)

問1

再入荷未定ショップとは、①どんなショップで、②どのような狙いがあるのですか。

- ①
- ②

問2

販売している商品を、2つ挙げてください。

-
-

問3

SDGs(持続可能な開発目標)には17の目標が掲げられています。このうち、下記に5つの目標を示しました。「再入荷未定ショップ」企画が当てはまると思うすべての目標に○を付けてください。

「 」 気候変動 「 」 生産・消費 「 」 ジェンダー 「 」 海上資源 「 」 成長・雇用